●◎○●安全衛生 ―職場の改善事例―●○◎●

3S活動 その2

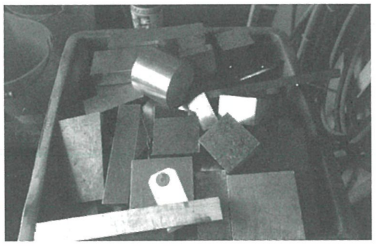
労働安全衛生コンサルタント　金森英二

【前回まで】

労働安全衛生コンサルタントとして活躍する執筆者が、従業員数約20名の機械加工メーカーからの依頼により安全衛生活動の一環として『3S活動』（整理・整頓・清掃）を指導します。

前回では、コンサルタントの指導に同じ指摘が繰り返されるようになったことから、メーカーの社長と相談し、班長クラス3名を実行委員に指名しました。実行委員は『3S活動スケジュール』（本誌9月号参照）を作成し、【基本姿勢：全員参加】とした計画を作成します。

今号からこの作成したスケジュールに沿って、従業員全員参加の『3S活動』が始まります。



不要の印がついた金属類

分別した鋼材

▽

放置されていたスプレー缶

木材、木片をはじめ分別した不要品

▽

『3S活動スケジュール』予定の前半は順調に進み2月中旬には、大量の不要品が屋外に排出され、再分別後処分されました。（写真）

これら処分された物の中には、工場の片隅に50年以上放置されていたものもあり、会長からは「懐かしいな！」の声が聞こえました。

成果としては、工場内に新たなスペースが生まれたこと。工場2階に保管されていた使用しない加工機等を処分したことにより地震対策にもつながりました。また、以前に加工した製品で廃版になった物や試作として加工され保管されていた物など大量の金属類があり、これらを処分したことで数十万円の臨時収入がありました。

それよりも社長が評価したのは、若い中間層の実行委員を中心に全員が参加しての活動となったことです。

ただ問題点も多々ありました。

(1)テープ（ふせん）貼りの段階で、自分では判断が難しいため「貼らなかった」という物が多くあった。

(2)分別の段階では「まだ使える」と、必要品に分別された物が多くあった。

（後日、何に使えるか確認すると「それはわからない……」という返事が多くあった）

そして、その後の「整頓の実施」が日常の仕事に追われ、スケジュール通り進んでないことが残念である。

▽

＊従業員全員参加の『3S活動』はこのまま日常の仕事に流されて停滞してしまうのでしょうか。

次号に続きます。